

## 名誉ある受賞!

D3 Suzuki Receives Award for his Paper!

## —鈴木さんにインタビュー—

— Interview with the recipient —



5月24日(金)にD3鈴木亮平さんが「ワルシャワ歴史地区の復原とその継承に関する研究」で日本都市計画学会年間優秀論文賞を受賞しました!!受賞理由では「変化していった住民の意志を…研究対象とし…論証を試みるという、チャレンジ性」が評価されていましたが、その熱意をインタビューしました!



▲修士論文で取り上げた旧市街広場

—論文の言葉からも熱い思いをお持ちなんだと感じたのですが、ワルシャワの魅力について少しだけ教えてください。

戦後のワルシャワ市民の、都市空間に見出した"希望"でしょうか。さらには、その想いが形を変えながらも、今のワルシャワをめぐる議論にもつながっているあたりに、トキメキます。

—研究を進める上で大変だったことは?

言葉もわからず、知り合いもおらず、最初はドキドキしましたが、何とかなりました。本当に出会いに恵まれ、いろいろな方に助けられました。

—研究生活を支えてくれたものはなんですか?

良い出会いに恵まれて、「知りたい!」というモチベーションが保たれたことだと思います。常に楽しむことができました。

—論文の書く上で気を付けてることがあったら教えてください!

質問の言葉を借りるのであれば、「熱い思い」をぶつけることでしょうか。修士論文ですし、荒削りでもいいので、自分の関心・考えを書き切ろう!、とは常に思っていました。「ギラギラ感」みたいなものが、出せると良いかなと。

—博士論文への意気込みをお願いします!

博士過程に入ってから、いろいろな人に「博士号、取る気あるんですか?」って聞かれ続けましたが(笑)、もちろんあります!!今回の賞が過去の栄光にならないよう、しっかり研究します!!

—お忙しい中ありがとうございました!

—まず受賞にあたっての感想を一言お願いします。

今回の論文は、修士論文に少し手を加えたものなので、博士研究の成果と言えない点は何とも。。しっかり博士論文を書かなければ、身の引き締まる想いです。ただ、修士論文を改めて評価していただけたことは非常に自信になります。

—修士1年の初めからワルシャワについて研究しようと思われていたそうですが、何がきっかけだったのですか?

修士課程に入る前の春休みに読んだ安藤忠雄「連戦連敗」に、ワルシャワの復原に関して数行、記述がありました。昔から「戦争」には関心がありまして、テーマとして絡めたいと思っていたので、読んだ瞬間にワルシャワに決めました。

## —まち大都市デザイン演習ジュリー—

— MACHI-DAI Design Studio Jury —

## 社会人の本気!

Creative and Exciting Presentations!

5月25日(土)にまちづくり大学院の都市デザイン演習のジュリーが行われました。担当教員の松田先生にその成果を報告していただきます。

松田 達 助教

今回のまちづくり大学院の都市デザイン演習のテーマは「都市のブランディングとプロモーション」。6期受講生は4つのチームに分かれ、それぞれ東京近郊の街を選び、ブランディングとプロモーションのための冊子を制作することが課題です。非常勤講師の笠置秀紀さんと、松田が主担当となり、途中、特別講師として三浦展さんと新雅史さんをお招きして授業は進みました。

最終ジュリー、1班は八重洲の地図と情報をプリントしたクリアホルダーを組み合わせたもの、2班は板橋仲宿の商店街の各店の情報と色とりどりの包装紙を交互に重ねたもの、3班は仮想の大学を東中野駅そばの飲み屋街に設定し、そのパンフレットを印刷したもの、4班は鶯谷を紹介するウグラブというキャラクターを設定し、街づくりに誘う小冊子とゲリラ的チラシを、それぞれの成果として発表しました。

一種のメディアをつくる課題に対し、想像以上に多様な成果が現れたことで、講習会は大いに盛り上がり、その後も講師とまち

大学生による、まちづくりへの真摯な議論が続きました。最後の根津での懇親会の後、夜の谷根千小ツアーも行われるなど、最後までまちらしい楽しいノリと盛り上がりが続いたにぎやかな演習となりました。



▲まち大演習発表の様子



▲まち大演習懇親会の様子

# " 留学生コーナー第 23 弾！ "

## An Essay by International Student Vol.23

### What makes a favorite town?

My favorite town in Tokyo? The question seems easy, but made me feel lost. What is a favorite town? Is it where one goes the most, or the most beautiful one? The town one feels the strongest for? I go here for some things, there for others. The prettiest places are not always the ones that move my heart. The places I feel fondness for are scattered, small, not towns where I could bring someone – anticlimactic places like a side street in a residential area, where the potted gardens are well cared for, or the space under a bridge, where the sun hits the water. It seems mundane, but these places feel intimate and secret, personal.

I had already prepared a text about this when I went on a study trip to Yanesen for one of my classes. Our guide for the day was Mori Mayumi, who has devoted herself to this part of town, for which her love and knowledge was so deep that it woke something in me too. I thought: This could be a favorite town. But is it really mine? I do not know what I would do here. It does not ask for me. Yet seeing someone really care, I cannot help but caring, too.

In Stockholm, there are parts I enjoy more than others, but I think I

長年住んでいると気づかない日本の都市の姿を、留学生の新鮮な目で伝えます。第 23 弾はスウェーデン出身の交換留学生 カタリーナリングンソンさんです！

### 交換留学生 Katarina Ringenson

feel the strongest for the boring, fully gentrified neighborhood where I grew up. Perhaps a favorite town is one to which one feels connected. By lending me her connections, her loving eyes and knowledge, Mori-san in a way made me see Yanesen like that. But there are probably other parts of Tokyo I could open my heart to, if I knew them more personally, via someone who loved them. What stories are hidden in this city?



▲ Roji covered with green



▲ A street corner of Yanesen

## 同潤会の知恵を後世に Ueno-shita Apartment Measurement

最後の同潤会アパート、上野下アパートの測量！

text\_douki

5月8日(水)にM1 瀬川、高梨、道喜が5月中旬の解体が決まった上野下アパートの実測調査へ、東京大学建築学科大月研究室の手伝いとして参加してきました。上野下アパートは関東大震災の復興事業で建設された同潤会アパートの現存する最後のものでした。そこでは2棟のうち大通りに面した1号館の低層部が店舗併用住宅になっていたり、2号館はセットバックして通りに面して前庭を設けたりと、集合住宅を都市に開こうとした同潤会の意図が感じられました。また、敷地内の木々や植栽が生い茂り、階段や手すりになじむようにすり減り、建物内を住民自らが手を加え改修してきたことで、時を経て使い込まれてきた風景もありました。この設計者の意図と使い込まれた風景が調和した上野下アパートの解体は非常に残念ではありますが、だからこそこの風景を感じた経験を生かしていきたいと思いました。



▲ 4Fのみ中廊下型の上野下アパート



▲ 都市工学科 B3 の参加もありました！

## Urban × ICT ! Inter-school Discussion on Big Data

D1 宋さんからワークショップの紹介です。

D1 宋知苑

「Urban × ICT」ワークショップは情報理工学研究科でこの春からスタートした博士課程教育(修士・博士一貫制)リーディングプログラム・ソーシャルICTグローバルクリエイティブリーダー育成プログラム(GCL)の一部として運営されているものです。私はこのプログラムにリサーチアシスタントとして参加しています。このワークショップの趣旨は、GCLや都市工の修士1年生を対象に「都市」でソーシャルICTがどのように利活用されているのか、その現場の話を研究者や実務家の視点から聞き、そして、専攻の違う学生たちが一つのテーマについて意見を交えることです。この二つを通して、多様な見方、考え方を身につけてもらおうというものです。学生達の議論する模様は運営側からしても勉強になります。7月にはデザ研D4のユンさんも講演します。是非遊びに来てください！



▲ Group Discussion



▲ Brainstorming

### ✧ 編集後記

高梨 遼太郎

新しく編集委員になりました、高梨です。今回の号は写真がどれも色鮮やかでテーマカラーも緑と、5月の陽気をお伝えできたのではないのでしょうか。これから梅雨入りということで、近年の秋の短さも、この過ごしやすい天候とはしばらくお別れですね。見た目に反して季節の変わり目が弱点という残念なギャップを持っている自分は、学部の頃は梅雨になると雨の中でアメフトをするたびに風邪をひいていました。皆さんも雨の日のフィールドワークなどお気をつけください！

6月・7月の予定

Information

6月10日	佐原現地調査
6月11日	第4回研究会会議
6月下旬	大槌訪問
7月2日	第5回研究会会議
7月4日~5日	Lumbini ISSC

### ウェブサイトのご紹介

テキサス大学図書館所蔵の地図は下記サイトでダウンロードできます。研究に是非ご利用ください！(李ワイさんのご紹介)  
<http://www.lib.utexas.edu/maps/>